

論文審査の結果の要旨

<p>報告番号</p>	<p>甲 保 第 51 号 乙 保</p>	<p>氏 名</p>	<p>FENI BETRIANA</p>
<p>審査委員</p>	<p>主 査 友竹 正人 副 査 葉久 真理 副 査 岡久 玲子</p>		

題 目 Psychometric Properties of Grief Traits and State Scale for Nurses to Measure Levels of Grief

(看護師の悲嘆レベルを測定するための悲嘆状態・特性尺度の心理測定的特性)

著 者 Feni Betriana, Tetsuya Tanioka, Tomoya Yokotani, Youko Nakano, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Yueren Zhao, Rozzano C. Locsin

2021 年 8 月 OMEGA-Journal of Death and Dying, 0(0), 1-20.
<https://doi.org/10.1177/00302228211036862> に発表済

要 旨 患者の死に頻繁に曝されると、看護師は悲嘆を経験する。未解決の悲嘆は、看護師のメンタルヘルスと看護ケアの質に有害な結果をもたらす。本研究の目的は、オンラインによる横断的調査を実施し、Betrianaらが開発した Grief Traits and State Scale for Nurses (GSSN) の妥当性を明らかにすることであった。探索的因子分析により、GSSN は看護師の悲嘆特性を測定する 2 因子 (Cronbach's alpha : 0.84) と悲嘆状態を測定する 2 因子 (Cronbach's alpha : 0.86) で構成されていることが明らかにされ、看護師の悲嘆レベルを測定する上で、GSSN が信頼できる評価尺度であることが実証された。また、看護師の良いケアを提供できないという感情は、悲嘆リスクの高さ (オッズ比 (OR) : 4.30、95%信頼区間 (CI) :1.45-12.75)、死に対する不快感 (OR : 11.29、95%CI : 1.48-85.91)、感情的消耗 (OR : 7.12、95%CI : 1.63-30.99) と関連しており、看護師のメンタルヘルスの改善に GSSN を活用する意義が確認された。看護管理者は GSSN を使用して看護師の悲嘆レベルを測定し、悲嘆の経験の解決に活用することができるため、有用な研究結果であることが示唆された。

以上の内容は、看護職員の労働安全への貢献を示唆するものであり、今後の保健学および看護学の発展を考える上で、その社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。